

モニタリング結果報告書（平成24年度下半期）

施設	山岳スポーツセンター
指定管理者	公益財団法人神奈川県公園協会
指定期間	H21. 4. 1 ～ H27. 3. 31
施設所管課	スポーツ課 ()

1 今期の指定管理者の管理運営状況（2～10の結果を踏まえた判定）

B

<判定理由>

施設の魅力向上のため、提案した取組みを着実に実施した。
 また、利用者数は前年同期対比で減少しているものの、上半期に引き続き、秦野戸川公園、ビジターセンター及び県山岳連盟と連携したイベント等の取組みが実施されており、施設の利用促進や、子ども向けの各種体験教室等の実施を通じたクライミング愛好者の裾野の拡大に繋がる取組みが図られていることからB判定とした。

- A：提案を上回る取組みを実施し、極めて良好な管理運営状況である。
- B：提案どおりに取組みを実施し、良好な管理運営状況である。
- C：提案どおりに取組みを実施したが、管理運営状況については、一部工夫が必要な面がある。
- D：提案どおりに取組みを実施していない。また、提案どおりに取組みを実施したが、管理運営状況については、抜本的な改善が必要である。

2 月例報告書によるモニタリングの概況

報告月	受理日	確認通知日	確認方法			指導等の有無	備考（指導事項等）
			月報確認	現場確認	電話確認		
10月	11月12日	11月29日	○	—	○	無	
11月	12月10日	12月27日	○	—	○	無	
12月	1月11日	1月31日	○	—	○	無	
1月	2月12日	2月28日	○	—	○	無	
2月	3月11日	3月28日	○	—	○	無	
3月	4月10日	5月10日	○	—	○	無	

3 指定管理者が提案した取組み等の実施状況

	提案内容	実施状況
1	秦野戸川公園、ビジターセンターとの三館共同のイベント開催による利用促進を図る。	10月20日 秦野戸川公園まつりに開催 体験クライミング 有料参加者数55名 2月17日 三館(秦野戸川公園、秦野ビジターセンター、山岳スポーツセンター)合同イベント「みんなで作る・登る・あそぶ」を開催 体験クライミング参加者数31名

	提案内容	実施状況
2	<p>県山岳連盟と連携した子ども向けのクライミング教室を開催し、クライミング愛好者の裾野の拡大と安全教育の推進を図る。</p>	<p>下半期 10月8日 県民スポーツ週間 体験クライミング 参加者数60名</p> <p>11月4日 かながわ県民登山と同時開催 神奈川カップ キッズクライミングコンパ 参加者数31名</p> <p>(参考) 上半期 4月22日 秦野丹沢まつり(山開き)に開催 体験クライミング 参加者数176名</p> <p>7月28日～29日 親子シャワークライミング テント泊&星空観察と沢登り 参加者数39名</p>
3	<p>施設に関する県民への情報提供</p>	<p>ホームページや広報看板などを活用して山岳スポーツセンター施設の広報活動を積極的に展開するなど、広く県民に対して施設情報の発信に努めた。</p>
4	<p>利用者満足度集計結果(利用者アンケート等)に基づくサービスの改善と向上</p>	<p>より使用しやすく親しみやすい施設運営に資するため、「利用者アンケート」などを活用して施設運営の改善を図った。</p> <p>例えば、館内ミーティングにおいて、お客様本位で窓口対応にあたることを申し合わせた。</p> <p>また、トイレの清掃に係る利用者からの意見に対して、館内ミーティングの場で改善策を議論し、こまめな清掃と換気扇の常時運転を実施することにより改善を図った。</p>
5		

4 収支状況

(単位：千円)

		収入額				支出額	収支差額
		指定管理料	利用料金	その他収入	収入合計		
募集時の積算額 (参考)		16,438	5,183	0	21,621	21,621	0
予算額	前年度	16,351	5,183	0	21,534	21,534	0
	上半期	8,139	2,592	0	10,731	10,731	0
	下半期	8,212	2,591	0	10,803	10,803	0
	今年度	16,351	5,183	0	21,534	21,534	0
	上半期	8,139	2,592	0	10,731	10,731	0
	下半期	8,212	2,591	0	10,803	10,803	0
下半期実績額	10月	1,092	242	0	1,334	1,478	▲ 144
	11月	1,150	399	0	1,549	1,529	20
	12月	2,145	321	0	2,466	2,656	▲ 190
	1月	1,029	332	0	1,361	1,406	▲ 45
	2月	1,150	265	0	1,415	1,355	60
	3月	1,646	250	0	1,896	2,132	▲ 236
	今年度 下半期合計	8,212	1,809	0	10,021	10,556	▲ 535
	前年度 下半期合計	8,334	1,768	0	10,102	11,006	▲ 904
	対前年度下半期比			③	-0.8%	-4.1%	
	参考	今年度 上半期合計	8,139	3,778	0	11,917	10,879
今年度 合計		16,351	5,587	0	21,938	21,435	503

注：千円未満を切捨てているため、合計は一致しない。

収支状況に関する確認等

確認項目	該当	理由等
① 年間予算額における収支差額が0でない	×	該当なし
② 今年度下半期合計欄の収支差額が、収入合計又は支出額のうち低い方の額の1割以上増減がある	×	該当なし
③ 収入額又は支出額が前年度下半期比で3割以上増減がある	×	該当なし
④ その他特記事項		

<参考>

本施設について県が支出した（する）計画修繕工事・各所営繕工事等に係る修繕費等
基本協定において、県が負担することとしている修繕費等：10万円以上

	金額（千円）	工事箇所・内容（金額）
上半期		
下半期		
合計	0	

今期に行った資本的な収入及び支出等の状況

	金額（千円）	内容
収入	0	
	0	
	0	
	0	
支出	0	
	0	
	0	
	0	
積立等	0（期首）	
	0（期末）	

- 1 収入：定期預金の取り崩し、借入れによる収入等
- 2 支出：車両の購入、施設の増改築、定期預金の積立て等
- 3 積立等：施設の増改築のための積立・借入れ、定期預金等

5 利用状況

	利用者数	前年同期利用者数	前年同期対比増減率
10月	874 人	1,243 人	▲ 29.7 %
11月	1,245 人	1,116 人	11.6 %
12月	542 人	526 人	3.0 %
1月	486 人	418 人	16.3 %
2月	431 人	686 人	▲ 37.2 %
3月	589 人	576 人	2.3 %

	目標利用者数	利用者数	前年同期利用者数	目標対比増減率	前年同期対比増減率
今年度上半期計	7,619 人	7,213 人	6,296 人	▲ 5.4 %	14.6 %
今年度下半期計	4,000 人	4,167 人	4,565 人	4.2 %	▲ 8.8 %
今年度合計	11,619 人	11,380 人	10,861 人	▲ 2.1 %	4.8 %

利用状況に関する確認等

確認項目	該当	理由及び対応策
① 今年度下半期の利用者数が前年同期比で1割以上増減	×	該当なし
② 今年度下半期の利用者数が目標利用者数を下回った	×	該当なし
③ その他特記事項		

6 苦情・要望等の状況

受付件数

下半期報告件数	口頭		文書			合計
	対面	電話	手紙	電子メール	アンケート	
上段：報告件数 下段：報告件数のうち所管課受付分	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	12 (0)	12 (0)

(参考)

上半期報告件数	口頭		文書			合計
	対面	電話	手紙	電子メール	アンケート	
上段：報告件数 下段：報告件数のうち所管課受付分	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	4 (0)	4 (0)

7 特筆すべき苦情・要望等及び対応状況

該当なし

分野	概要	対応状況
施設・設備		
職員対応		
事業内容		
その他		

8 事故や不祥事等の発生状況

該当なし

発生日	事故等の概要	指定管理者の対応状況	原因・問題点 (指定管理者の課題を含む)

9 随時モニタリングの実施状況

該当なし

実施日 (事故発生日)	経緯・調査内容	調査結果 (指定管理者の課題の有無等を含む)
()		
()		
()		

10 今期の実績を踏まえた評価、改善策等

上半期に引き続き、秦野戸川公園、ビジターセンター及び県山岳連盟と連携したイベント等の取組みが実施されており、施設の利用促進や、子ども向けの各種体験教室等の実施を通じたクライミング愛好者の裾野の拡大に繋がるような取組みが図られている点で評価できる。

今期（平成24年度下半期）における利用者数は、残念ながら前年同期対比で減少しているが、年間を通じた総利用者数は、前年度における総利用者数を上回っており、指定管理者による利用者サービスの提供は一定水準で保たれている。

また、施設の維持管理面については事故等もなく安全に管理されており、特筆すべき苦情・要望等もないことから、利用者との良好な関係が保持されていることが窺え、全体として適正な管理運営が行われていると考える。

本施設における課題は、例年利用者数が少なくなる下半期（特に冬場）に、いかにして利用者の増加に繋がるような取組みを図れるかということであり、今後の課題の一つとして注視していくとともに、更なる利用促進を期待したい。